

第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会 議事録

日時：令和5年7月5日（水）18時30分

場所：裾野市役所4階 401会議室

司会：学校教育課長

委員氏名・区分等

No.	氏名	区分	備考
1	村山 功	学 識 経 験 者 静岡大学教授	委嘱
2	豊福 静代	学 識 経 験 者 教育委員会評価委員会委員長	委嘱
3	石原 誠太	学 識 経 験 者 一般社団法人 UNIVA	委嘱
4	柴田 寛文	学 識 経 験 者 一般社団法人 UNIVA	委嘱
5	岩崎 正行	区長連合会長	委嘱
6	渡辺 裕武	市PTA連合会長	委嘱
7	八木 謙樹	公募による者	委嘱
8	河内 健斗	裾野高校 生徒会副会長	委嘱
9	持田 芳忠	中学校教職員の代表 (富岡中学校 校長)	任命
10	丸山 雅人	小学校教職員の代表 (西小学校 校長)	任命

傍聴人：3名

<p>1. 開会 (教育部長)</p>	<p>「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会。 この委員会は、「裾野市の教育のあり方検討委員会設置要綱」に基づき設置されるもので、市内小中学校の教育効果を高めるための委員会となる。</p>
<p>2. 委嘱状・任命書交付 (司会)</p>	<p>委嘱状及び任命書の交付を行う。 代表して村山委員に交付。</p>
<p>3. 教育長あいさつ (教育長)</p>	<p>参集に感謝。 再編計画と並行して、これからの裾野市の教育について審議する。目標を掲げて、裾野市の教育について考えていきたい。 再編審議会の中で、本市の教育のいくつかの課題がある。高校生や若い世代の方も委員として参集していただいている。若い世代の意見を聞き、次の世代の教育を具体的に考える機会としていきたい。</p> <p>自己紹介（委員名簿順） (事務局)</p>
<p>4. 委員長・副委員長選出 (司会)</p> <p>委員長 (以下略)</p> <p>司会</p> <p>教育監</p>	<p>次に委員長・副委員長の選出を行う。 「裾野市の教育のあり方検討委員会設置要綱」第5条第1項では、委員会に委員長及び副委員長を各1名置くと規定されている。また、同条第2項では委員長及び副委員長は、委員の互選により定めるとある。 委員長・副委員長の選出について意見はあるか？</p> <p>意見なし。 事務局（案）について承認。 委員長を村山委員、副委員長を豊福委員にお願いしたい。</p> <p><b>【拍手多数】</b></p> <p>当検討委員会の委員長は村山委員、副委員長は豊福委員。</p> <p><b>【委員長の席に移動】</b> キーワードは裾野らしさ。 10年後20年後の新しい裾野らしさを出せるように。 今の裾野らしさを活かしながら、様々なアイデアを出してほしい。</p> <p>協議事項に入る前に本委員会の趣旨を教育監より説明する。</p> <p>本委員会の目的は、裾野市の現在の「強み」を生かして、「ウエルビーイング」「エージェンシー」という切り口で、</p>

	<p>子供が減っていく中でどういう教育が行われるか、さらに、これからの裾野市の「強み」をどのように創造していくか検証すること。年度末には当委員会の成果として提言書の形として取りまとめていただきたい。</p>
司会	協議事項に入る。村山委員長に議事進行をお願いする。
5. 協議事項	
委員長	本日は、資料にあるとおり3つの事項につきまして協議を進める。はじめに、(1) 学校教育の現状報告及び課題確認について事務局より説明をお願いする。
(1) 学校教育の現状報告及び課題確認について	
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期 裾野市教育振興計画</li> <li>・基本施策</li> <li>・共育の森</li> </ul>
	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒数について 児童生徒数が減っていく中、2.6倍の数</li> <li>・特別支援を必要とする児童生徒数 特別支援学級に在籍する数、通級指導を必要とする数が増えている。</li> </ul>
教育総務課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再編計画説明 全88回、計1000人以上の生徒、地域、保護者の皆さんとの意見交換をさせていただいて策定した。 「床」から「人」へのソフト面へ教育費の転換を進めていく。 具体的な再編計画 向田小、東小の再編について、先日も協議したところ。 今年の4月から説明会を進めさせていただいている。 通学方法など不安解消できるように考えている。</li> </ul>
委員	質問 通学の問題をクリアすると聞いた。どのような策？
教育総務課長	スクールバス、既存の路線バスの活用について、バス会社と協議中。
村山委員長	次に、(2) 子供たちのコミュニケーションの育成について 事務局より説明をお願いする。
(2) 子供たちのコミュニケーション能力の育成について	
教育監	裾野市学校施設再編基本計画審議会が出された検討事項や再編地区説明会の席上問題となっている事項がいくつかあり、その中の一つ、子供たちのコミュニケーション能力の育成について、現役の高校生に「現状と高校生が考えるコミュニケーション能力を高めるには」についてお話をしていただきたい。
委員	<p>コミュニケーション能力 自分のクラスでアンケートをとった。 小規模校だった生徒が高校で、どんなことを感じるか聞いた。</p>

	<p>良い面 話す友達、いろいろな人と話せる。おもしろい人がいる。</p> <p>悪い面 同じ人と一緒になる。グループが固まっている。 同じ人としか話せない。 知らない人が増える。友達を作るのが苦手。 友達を作るときに声をかけられない。</p>
委員長	どのように友達を作っているか。
委員	<p>価値感の似ている子と友達になることが多い。 積極的に話しかける。 友達を通じて友達を広げる。 しかし、SNS のトラブルもある。 他のクラスの女子と仲が悪くなってしまった。</p> <p>コミュニケーション能力を高めるには？</p>
委員	<p>自分から積極的に話しかける。いろいろなタイプの人と話す。 あいさつから。積極的に話かけてアウトプットする。 話そうとする姿勢を大切にする。</p>
委員長	<p>質問があるか。 小規模校とそうでない人と比べて小規模校の人のほうが話しかけづらさがあるのか。</p>
委員	<p>小規模校の人の方が話しづらい、話しかけづらい。 集団ができていたので、入れない。</p>
委員長	<p>コミュニケーションの仕方が上手くないというより、そこに集団ができていて入るのが大変ということ？コミュニケーション力がないことではない？</p>
委員	はい。
委員	<p>コミュニケーション能力の定義をどう捉えるか。 個人のコミュニケーション能力なのか、個人と環境との相互作用によってなのかで規定されるもの。 個人として能力を鍛える事の他に、他の集団と混ざった後にどうするかも別の側面で検討する必要がある。 SNS トラブルに学校がどう介入するか興味深い。</p>
委員	<p>友達づくりをする観点には SNS の力が大きい。 しかし、トラブルになる要素がある。 SNS を含めて、「コミュニケーションとは」と考える必要があると感じた。</p>

委員	SNS を含めて、どのようにコミュニケーション能力をつけるかが必要。 身体的精神的社会的に幸せな状態を実現する術を持てるように。 ウェルビーイングが個人にも集団にも。
委員長	コミュニケーション能力について議論したい。 自由に発言を。
委員	定義については、非常に抽象的。技術的な面として、カウンセリングがある。カウンセリングは技術として学んだ。高校生も身につけられると思う。
委員長	小中学校でソーシャルスキルトレーニングを学んでいるか。
委員	特別支援学級、通級において、系統的に学んでいる。
委員	外部の人が来て、コミュニケーションについて学んだことがある。
委員	「個人のスキル」も、裾野の教育に必要な観点
委員	大学時に小規模校へボランティアへ行った。 校長から小規模校では、社会性が身につけにくい、と聞いた。 高校・大学では広い人たちと関わる機会となっていく。 原点となる小学校で話したいという情意面を育てる必要がある。
委員	学校の中で系統的にないならば、自然に育まれるだろうと想定があるのではないか。小規模校の子は環境を選べない。生徒数の減少、コロナの影響もあるのではないか。 大規模校の子たちは自然と多様な友達と関わっている。 小規模校、大規模校に関わらず、いろいろな人と混ざり合っていくという教育をしていく必要がある。
委員長	コロナの影響で学校に来られなくなった。地域の人間関係のあり方を考え直す機会となった。
委員	地域の中でコミュニケーションが希薄になってきたのを感じる。人との関係が苦手な子が増えている。
委員	1年生は1人の世界。または、横の友達と2人、3人。担任が同じ考えの人集まって・・・と促す。3, 4年生で5, 6人、5, 6年でもっと大きな集団での関わりが増える。教師の指導で、教育的な意図した指導がある。自然な育ちが学校の中で行われている。
委員	中学、高校へと見通した教師の投げかけがあると思う。
委員	小規模校の子がコミュニケーションの力がないわけではない。最初は大人しいが、今は元気。環境の変化が大きいという負荷がかかっているだけ。

	<p>委員 なじみにくいという考えはあるが、能力がないというわけではない。小規模校の子に能力がないと思ってほしくない。</p> <p>委員長 自分に能力がないと考えないで、初めて出会った人だから仕方ないよねと思ってほしい。 能力の有り無しではなく、パフォーマンスで見ていくこともできる。能力を使って何ができるか。小学校低学年だったらこういう場面でこれができるしてほしい。中学年だったら、こうあってほしいという姿を示すこともあり。</p>
(3) ウェルビーイングについて	
委員	(3) ウェルビーイングについて 事務局より説明をお願いしたい。
教育監	<p>第2期裾野市教育振興基本計画の基本理念は、「学びあい、高めあい、人間性豊かに未来を目指す人づくり」である。 「知徳体」は個人レベルの目標であり、社会的な視点に欠ける。それぞれが考えるウェルビーイングとは、どんなものか考えを聞きたい。</p>
委員	<p>ウェルビーイングを実現できているかどうか。 社会環境の変化、今求められているものとの差誰にとってのウェルビーイングなのか。 D&amp;I ダイバーシティ&amp;インクルージョン コミュニケーションをとれていない子がいる。社会まで接続することを考えていくことが大切。 新しい裾野の教育として考えることが、ウェルビーイング、コミュニケーションなど、これまでの話とつながってくる。</p>
委員長	裾野のダイバーシティについて考えるのは面白いビジョン
委員	多様な人とコミュニケーションを取る際に、カウンセリングの技法も有効。傾聴することから始めるのは大事な視点。
委員	<p>コミュニケーションは目的があつてするもの。 そもそもしたくない人もいる。コミュニケーションが必要ない人。 コミュニケーションを取らないのもウェルビーイングになることがある。</p>
委員長	他の人のウェルビーイングの定義を決めることはできないが、方針を出すときには一般的な考えについて示す必要がある。
委員	<p>自分は友達がいることが楽しい。 学校をやめる友達がいた。なじめなくてやめた。</p>
委員長	今、友達がいるから、外の世界とつながらないわけではないと思うが・・・。

委員	<p>社会に出ても友達とつながりたい。生涯の財産。 自分も友達にとっての財産になりたい。</p>
委員長	<p>社会に出てからのウェルビーイングの要素は？</p>
委員	<p>ウェルビーイングとハピネスとは違う。 ウェルビーイングとは、身体的、社会的、精神的に良好で、持続する 幸せ とある。 裾野としてのウェルビーイング、エージェンシーとは何か。個人として だけでなく、集団として相互に関わるようになるとよい。</p>
委員長	<p>自助、共助の考えもある。</p>
委員	<p>エージェンシーについて語ることも大切。自分の人生だけでなく、 顔が見える人、間接的に関わる人、環境についても責任をもって考 えていく力がエージェンシー、自分の考えるウェルビーイングが社会 と関わることで、さらに定義されていくと思う。</p>
委員長	<p>エージェンシーが何に向くかによって変わる。 自分が向きたいものにだけでない。</p>
委員	<p>自分の知っている人だけの関係では狭い。 町内会でも助け合いやつながり、言語化されていないようなバトン の渡し合いも昔はあったと思う。</p>
委員	<p>学校と地域が離れている感じがある。 お祭りの手伝いを学校に頼むのも、ちょっと…となる。 学校の授業を参観した。先生と生徒が友達のようなよう。 昔の時代と違う。とても伸び伸びと学んでいた。 学校内はうまくいっていると感じた。 学校と地域が離れてしまっているのはコロナの影響があるかもしれ ない。 小中学校でどの人とも関わる力が育まれると感じる。 高校、大学になると、同じ趣味の人との関わりになってしまう。い ろんな人と関わるのが小中。</p>
委員	<p>むりやり集団を作って学ぶ場が小中学校にはある。 社会に出て、知らない集団と関わる場面になると、小中で育んだこ とが生かされる。SST を無理にやるのではなく、一緒に何かを作 る、経験する活動に意味がある。</p>
委員長	<p>確かに異年齢での関わりも学校にはむりやりにもある。 須山小の特任区にも考えにも生かせる。 いろいろな考えを伝える。夢を語るができるといい。 たくさんの考えをありがとうございました。 それでは、予定されておりました議事はすべて終了した。 進行を学校教育課長にお返すする。</p>

<p>6. その他 次回委員会 の開催日について 学校教育課長</p>	<p>次回の日程につきましては、9月6日（水）18時30分からを予定している。事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付する。 委員の皆様から何かあるか。</p> <p>なし</p>
<p>7. 閉会 (教育部長)</p>	<p>再編の話の中で、多様性という話題や地域に思いが深い話がある。子供たちのためにどのような環境がいいか、を伝えるようにしていきたい。</p> <p>以上をもって「第1回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会する。</p>